

会議名	第2回港区まちづくりマスタープラン検討委員会
開催日時	平成27年10月26日(月曜日)午後6時30分から8時30分まで
開催場所	区役所7階711会議室
委員	(出席者) 学識経験者委員：中井委員、服部委員、市古委員、森本委員、杉浦委員、羽生委員 区民委員：今村委員、SUH委員、保坂委員、中島委員、堀場委員、大本委員、吉田委員 行政委員：小柳津副区長 (欠席者) 桑田委員
事務局	波多野街づくり支援部長・芝地区総合支所長(兼務)、佐野特定事業担当部長、坂本都市計画課長、杉谷土木課長、岩崎土木計画担当課長、西川交通対策担当課長、齊藤街づくり計画担当係長
傍聴者	3人
会議次第	1. 開会 2. 議題 (報告事項) (1) 区民アンケート及び意見交換会の実施状況について (2) 現行計画の評価と改定に向けた課題について (審議事項) (3) 基本的な事項について (4) 全体構想について ○まちづくりマスタープランの基本理念、将来都市像 ○まちづくりの方針 (5) その他 3. 閉会
配付資料	資料1 区民アンケート実施状況(概要) 資料2 意見交換会の開催状況(中間報告) 資料3 現行計画の評価と改定に向けた課題(概要) 資料4 港区まちづくりマスタープランの基本的な事項 資料5 港区まちづくりマスタープラン 全体構想(概要) 参考資料1 区民アンケート実施状況(中間報告) 参考資料2 意見交換会ニュース 参考資料3-1 現行計画の評価 参考資料3-2 港区を取り巻く状況 参考資料4 全体構想(参考) 参考資料5 委員名簿 参考資料6 港区まちづくりマスタープラン検討委員会設置要綱 参考資料7 第1回検討委員会 議事要旨 参考資料8 今後のスケジュール(予定)

会議の結果及び主要な発言

	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 区民アンケート及び意見交換会の実施状況について (説明)</p> <p>●アンケート結果について</p>
委員	まちづくりマスタープランを知らない区民が多いようだが、区としてどのような広報を行っているのか。
事務局	現在、区のホームページにて公開している。策定した際にはPR活動も行った。今後も周知には努めていきたい。
委員	アンケートの満足度の加重平均のグラフに関してだが、「わからない」の回答の捉え方によって、結果に大きく影響を受けている箇所がある。「わからない」が多いのか、「不満足」が多いのか、結果を分析する際は留意が必要である。
事務局	結果報告の際には、しっかりとした分析を行った上で報告する。
委員	アンケートの外国人の回答率が低い、その点はどう考えているか。
事務局	調査票配付後、追加で回答提出のお願いを行ったが、結果として外国人の回答は少ない状況となっている。他部署で実施したアンケート結果からマスタープラン改定において参考にできる内容を確認する等補強していきたい。
委員	●意見交換会のニュースについて
事務局	意見交換会のニュースはどこで見られるのか。 区のホームページ及び都市計画課窓口で見ることができるよう、本日の検討委員会後に公開する。
	<p>(2) 現行計画の評価と改定に向けた課題について (説明)</p> <p>●自転車走行空間の整備について</p>
委員	この10年間で、自転車走行空間はどのくらい整備されたのか。
事務局	平成25年に、区は港区自転車利用環境整備方針を策定した。最終的に区道の部分は50km整備することになっている。基本計画の中では、平成32年までに25kmを整備することを目標としており、毎年3km程度のペースで整備を進めていく予定である。現在は警察との協議が整ったところから整備を進めている。港区では、自転車走行空間は原則車道部分に作っている。
委員	ピクトグラムによって走行空間を示す箇所についても、この延長の中に入っているのか。
事務局	入っている。道路空間が狭く、どうしても分離した走行空間が確保できないところもある。
委員	交通安全上の観点からも、できるだけそのような表示は増やしていただきたい。
委員	●経済的な影響の考察について
事務局	10年前のリーマンショックによる影響はかなり大きかったように思うが、意見交換会ではそのような意見はあまり出されなかったのか。
委員	意見交換会ではあまり出されなかった。
事務局	10年間の達成度の中で、経済的な影響の考察はされているのか。
事務局	本日まとめたものには含まれていない。

委員長	不動産市況、例えば地価の動向、オフィスの空室率などは、リーマンショック前後で影響を受けているはずなので、参考資料3-2に追加した方がよい。
事務局	次回提示できるよう準備する。
	(3) 基本的な事項について (4) 全体構想について (説明)
委員長	●都市構造図について 本日示されている都市構造図(資料4、2ページ目)は、これが案なのか。それとも例示されているだけで、中身は今後詰めていくということか。
事務局	このような図をマスタープランに新たに付け加えたいということで、本日は例示させていただいている。
委員	都市構造図について、3つのゾーンの考え方は非常によくできていると感じる。防災上の観点からみると、業務系、住居系、それらが混在する地域で、方針や対応の組立て方が異なってくる。次回は、この3つのゾーンごとに地域の方針を頭出しすることで、うまく議論ができるところもありそうである。
委員長	●地区区分について 地区区分について、現行計画は中学校区の9区分ということだが、今回の改定では総合支所の5区分が提案されている。支所ごとの5区分というのは、港区の他の計画等でもよく使われているものという認識でよいか。
事務局 副区長	その通りである。 基本計画を地区ごと(5区分)で作っていることもあり、5地区の分け方は区民にも馴染みがあり、理解いただきやすいものと考えている。
委員 事務局	意見交換会で芝浦港南と台場が分けられていたが、それはどうしてか。 参加者の移動の負担や、地域の活動がそれぞれ分かれて行われているものがあるということを考慮し、意見交換会は分けて開催させていただいた。
委員 事務局	地区区分を5つにすることによるメリット・デメリットはあるのか。 デメリットが発生しないよう対応していく。今回区分する地区数を減らすことにより、内容の密度がこれまでより薄くなるということはないよう配慮する。
委員	基本計画の地区版計画の策定に携わった際に、古川を挟んで地区が分かれる箇所について、ひとつの川沿いのエリアなのに検討対象とできる範囲が制限されてしまうということがあった。地区間の連携・協働が大切なのではないかと考えているので、そのようなことが生じないように配慮いただきたい。
事務局	マスタープランでは、テーマ別における区全体の方針が前提となり、その方針に沿って各地区において具体的な記載がされる。どちらかの地区のみで記載するといった不具合が生じないように配慮する。
委員	地区区分を5地区にという提案に異論はない。麻布、白金、青山などは、全ての地区で高さ規制が設けられ、良好な居住環境が重視されている地区と言える。一方、麻布地区に含まれる六本木などは、都市機能、業務的な機能の集積がイメージされる。現行の9地区で色分けできているものが、5地区になることによりまとめて表現されてしまう点には留意が必要である。
委員長	今回のまちづくりマスタープランは5地区で作成した上で、地域ごとに熟度が高まったところから、このマスタープランに重ねる形で、地区ごと

事務局	<p>の詳細のガイドラインを示すというやり方もある。さいたま市では、大宮、与野本町などがそのような形をとっている。</p> <p>港区でもすでにまちづくりガイドラインを策定している地区があるが、今いただいた視点を踏まえ検討していきたい。</p>
委員	<p>●港区の開発動向について</p> <p>現在、港区では多数の開発が進んでいる。10年後くらいを見据えると、開発により都市構造等が大きく変わってくる可能性がある。現在の開発動向が詳しくわかるような、もう少し丁寧な資料を出していただけでないか。面的な広がりが見える資料があると区民としてはありがたい。</p>
事務局 委員長	<p>もう少しきめ細かな資料が必要だとは考えている。</p> <p>開発動向を図面レベルに落とししたものを含め、資料の用意をお願いしたい。</p>
委員	<p>●交通安全の観点からの安全・安心なまちについて</p> <p>4つのまちの姿に「安全・安心なまち」という欄があるが、交通安全という観点からの文言もぜひ入れていただきたい。資料を見ると、平成26年に交通事故で亡くなられた方が7名、重症が9名、人身事故が1,421件起きている。これに対し、殺人で亡くなられた方は1名であり、交通安全については大きな数字であることにも配慮いただきたい。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
委員	<p>●港区の目指す観光の方向性について</p> <p>観光について、各分野での課題（資料3、2枚目右下）で、東京の玄関口として観光資源の魅力向上と発掘、といった記述がされているが、この両者は単純に結びつく話ではない。玄関口としては、日本や東京の内外へのネットワークの機能を向上させるという課題がひとつあるのではないか。ネットワーク化は、区内ではなく区内外にネットワークを広げるという話であり、港区の中の魅力向上や資源発掘という話は分けて記載するのがよい。</p> <p>「歴史・文化資源の継承」というところでは、文化という文言があいまいに用いられている。資料を読むと、「国際都市、国際化」という観点で文化を強調したいということが読み取れる。伝統的な文化を継承するというよりは、国際的な交流の中で発生するダイナミックな新しい文化という観点を強調したいとすると、都市の将来像の中に「活力」「スピード」「にぎわい」「新しさ」などの文言がないことが気になる。今の表現では、文化というと「日本らしさ」「日本固有の」といった歴史的な印象を受けかねない。</p> <p>また、改定案のまちづくりの方針（資料5、2ページ目右下）では、観光まちづくりの基盤づくりということが書かれているが、「玄関口としての機能の向上」「エリア内の魅力を高めること」「新たな活力・活況を生み出し、その中で文化を創造していくということ」を整理した上で方針を出した方がよい。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた点を踏まえ、流れに不自然さがないようまとめていきたい。</p>
委員	<p>●商業に関する記載について</p> <p>全体的に「商業」という単語が少ない印象がある。港区が国際都市としての魅力を高めていく上で、民間が主導する商業的機能の蓄積、もちろんその裏にはビジネスがある。住民の皆さんからの聞き取りだけではあまり</p>

	<p>出てこないビジネス、業務・商業といった部分が、実は観光都市としてはすごく重要である。都市の魅力として、例えば「新しさ」「スピード」…というものが商業的な面で表れているのが港区の一つ押し出すところであり、もう一つが「伝統・文化」ということである。その点も意識した上で国際化については書かれた方がよいのではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>●港区ならではの国際都市としての記載について</p> <p>「世界に開かれた国際的なまち」というのは、いろいろなどころで言われている。港区ならではの中身をどう出していかを皆さんで議論できるのがよいと思っている。大使館が多数ある、赤坂・青山など中心に国際的な企業が多い、港区ならではの買い物…など、もう少し踏み込んだ記載の検討をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>東京で宿泊する観光客数の割合を出せば、外国人の観光客が多いことを示せそうである。それが国際都市港区としての一つの切り口になりそうである。そのあたりを調べていただくと説得力も出てくる。</p>
<p>委員</p>	<p>●5つのまちの姿について</p> <p>5つのまちの姿の一番目に「住みつづけられるまち」という住居としてのまちの姿があがっているが、港区の実情と乖離がある印象である。「住む」といっても、港区の場合は、住民アンケートでも第一位であり半数近くがまちのイメージとして挙げている職住近接のような住民実感を伴う視点を掲げた方がよいのではないか。区として夜間人口を増やす意図をもって掲げているのは理解できるが、より住民理解を深めるには実情や実感を反映した表現としたほうがよい。</p>
<p>委員</p>	<p>今後人口が30万人になるという推計が出されているが、現行計画のときに推計されていた1.5倍となると、それだけ住む人の場所が必要となる。タワーマンションに建替えて住居を増やしていくことが、住みつづけられる、安全・安心ということにつながるのかが疑問である。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘いただいた通り、今後も集合住宅の供給が増えることが想定される。増えた人口が、一時的にでなく住みつづけていただきたいというのが港区の思いである。そこから発生する新たな課題への対応を検討し、住みつづけていただけるようなまちづくりを行っていきたい。安全・安心を確保できるかということをしっかり考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>住みつづけられるということに関して、居住者の視点は入っているが、企業・就業者・大学・学生の視点も合わせて持っていただきたい。</p> <p>また、老朽マンションと合わせて、空き家問題も大きなことである。今後は空き室が多くなることへの対応も深刻なのではないかと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>●水とみどりの軸の意味について</p> <p>都市構造図の中に、水と緑の軸が示されているが、どちらも多義的な意味が含まれると思われる。例えば緑であれば、公共空間や景観として人が活用できる緑、低炭素や熱緩和など環境に働く緑、多様性などをもたらす生態ネットワークとしての緑など、機能のすみ分けを踏まえているのか。それぞれの機能によって設定されるべき要件が異なるため、機能的な色分けがないと、軸がもつ意味が理解しづらい。何をもち軸となっているのかを明示していただきたい。特に、麻布のあたりが非常にわかりづらい。</p>
<p>事務局</p>	<p>考え方のベースとしては緑と水の総合計画があり、そこに位置付けられたものをマスタープランの中に落とし込んでいくことになる。</p>
<p>委員長</p>	<p>次回の会議では、緑の水の総合計画も参考資料として机に置いていただ</p>

委員	<p>きたい。</p> <p>●教育という観点からのまちづくりについて 教育という観点が抜けてしまっているように感じる。20年後のまちづくりを考えるにあたって、まちづくり教育、担い手の育成という視点も盛り込んでいただけるとよいのではないかと。</p>
委員 事務局	<p>●低炭素化に向けた対策について 低炭素について、昨年度建築基準法が改正され基準が厳しくなったが、港区として何か対策は考えてられているのか。 省エネ基準については、都よりも区の方が厳しくなっている。今年度低炭素まちづくり計画を策定し、目標の数値を掲げた。目標に向かって具体的にどうするかは今後の検討課題である。</p>
委員	<p>●都市機能の継続という視点について 防災では、「都市機能を回復できるような…」というのが大切なキーワードとなってきた。生活及び都市機能の継続という視点は入れ込んでいてもよいのではないかと。</p>
委員	<p>●その他 港区の多様性に富んでいる魅力を活かす計画になるとよいと感じている。</p>
委員長	<p>●次回検討委員会に向けて 一点目として、昼間人口、空き家などについて、エリアマネジメントという括りで語られることを盛り込む必要がある。二点目として、現代の計画においてはエネルギーという視点は欠かせない。三点目として、港区は、総合地域安全度は安全な地域であるが、90万人の帰宅困難者が発生する可能性がある。帰宅困難者対策については次回ご紹介いただきたい。</p> <p>(5) その他 (説明) 今後のスケジュールについて</p> <p>3. 閉会</p>